

エディトリアル

日光市民病院 管理者 杉田義博

今回は日常診療シリーズの第2弾として耳鼻咽喉科領域を自治医科大学耳鼻咽喉科学講座の先生方に「へき地診療所で耳鼻喉を診る」というタイトルでまとめていただいた。

全体的なテーマは、伊藤正人教授の総論にあるように、「へき地における耳鼻咽喉科診療のファーストタッチを担うへき地診療所の医師が見逃してはならない疾患や兆候、特にRed Flagsと地域の耳鼻咽喉科専門施設に紹介するタイミングについて主要な症状から網羅的に解説する」というものである。耳鼻咽喉科専門医で現在はへき地診療所に勤務する藤澤嘉郎先生の「日常診療でよくみる症候への対応」では診療所で遭遇することの多い病態について、また喉の診方など基本的な事柄について分かりやすく解説いただいた。耳鼻咽喉科の専門クリニックを開業する菊池恒先生の「日常診療で見逃してはならない兆候」では、コロナ禍での咽頭の診察における注意やover diagnosisに対する専門医としてのコメントがあり、遠くの専門医に紹介すべきか、急ぐべきかと悩むことのできるへき地診療所の医師にとって大変安心できる指摘だった。自治医科大学の西野宏先生には耳鼻咽喉科専門医のいない病院の救急外来でよく遭遇する兆候について、そのポイントを分かりやすく解説していただいた。佐野市民病院の中村謙一先生には小児耳鼻咽喉科疾患について、専用の器材がないへき地診療所での耳鼻咽喉科領域診療のコツを、暴れる子どもの押さえ方など診療現場の実情を踏まえて詳細に述べていただいた。自治医科大学の金沢丈治教授には超高齢化社会で多くの高齢者が抱えている加齢性の耳鼻咽喉科疾患について、それらを意識して診療すること、専門的治療に結びつけるチャンスを逃さないことの重要性などを詳しく解説いただいた。

全体を通して、へき地の診療所や救急外来で重要かつ見逃してはいけない兆候や遭遇する機会が多い疾患については繰り返し言及されており、本特集が単なる総説ではなく、専門医が本当に伝えたいことをわれわれにしっかりと伝える構成になっている。学生や研修医の頃、医局や外来・病棟で先輩が繰り返し教えてくれたことが実際の現場では最も役立ったように、この特集を通読することでへき地診療所における耳鼻咽喉科診療のエッセンスを身に付けることができると思う。多くの専門医の方をご紹介いただき、一貫性のある学びを提供していただいた伊藤教授に深く感謝したい。